

# 桑井先発 中国に快勝

幕別出身

## 女子7人制ラグビー五輪アジア予選

女子7人制ラグビーのリオデジャネイロ五輪アジア予選東京大会第1日が28日、東京・秩父宮ラグビー場で行われ、日本は初戦で中国を20-17で破り、白星発進した。幕別町出身の桑井亜乃(アルカス熊谷・立正大学大学院)が先発出場し、チームの勝利に貢献した。(松村智裕)

父健志さんら「よく頑張った」

帯農陸上部監督 後輩たちも声援

この日は午後からグアム、香港と対戦した。大会にはアジア6チームが出場。総当たりのリーグ戦後に順位決定戦を行う。香港大会(7、8日)と東京大会の合計ポイント数が最も多いチームが五輪出場権を獲得する。香港大会で優勝した日本はポイントで優位に立っている。初戦の雄姿を見届けた健志さんは「昔から負けず嫌いで気持ちの強い子だった。全勝して、ぜひ五輪を決めてほしい」と期待を寄せる。法子さんも4

日 本 20(10)107 中国 20001020001023 TGP前TGP後計反 0000001100775

## パワフルな走りで突破

### 強烈タックルでも貢献

桑井をはじめ選手たちが「重要な試合」と位置付けていた中国戦。香港大会で5-12と唯一苦杯を喫した相手に辱し、五輪へ大きく前進した。桑井は大柄な中国選手に立ち向かう気迫のこもったプレーを繰り広げた。パス技術も高い中国に対して、日本は運動量とスピードで対抗した。相手の攻撃を食い止めると、前半4分、相手ゴール前のラインアウトからドライブینگモーターで観戦。初戦の雄姿を見届けた健志さんは「昔から負けず嫌いで気持ちの強い子だった。全勝して、ぜひ五輪を決めてほしい」と期待を寄せる。法子さんも4



【日本-中国】後半、相手陣内に突進する日本の桑井亜乃(中央、山川静子撮影)



スタンドで桑井を応援する家族ら。前列右から父健志さん、姉の園乃さん、志乃さん、おいの獅騎(しき)君。後列右からめいの虹恋(にこ)ちゃん、母法子さんら

「選手の自信が見えるプレーもあり中国に勝ったが、ここからが大事」と浅見敬子ヘッドコーチ。桑井は試合後、観客席に手を振るなど笑顔を見せたが、喜びもつかの間、次戦へ集中力を高めていた。

黒田裕芽がトライ。待望の先制点を挙げた。次の得点は桑井が起点となった。パワフルな走りで中央を突破。倒されながらも富田真紀子につなぎ、最後はチーム一の俊足山口真理恵が左隅にトライを決めてリードを広げた。後半にもスピードを生かした展開で山口と小出深冬がトライを決めて20-10に。桑井は後半2分に退き、その後、中国に独走トライを許したが追加点を許さず逃げ切った。

桑井は「相手が大きくても1対1で倒したい」と意気込んでいた通り、相手の進撃を阻む強烈なタックルがさく裂。日本ペースを呼び込んだ。

月に観戦した時にはすぐ体力がなくなっていたが、きょうはよく頑張っている」と娘をたたえた。桑井が所属していた帯農陸上部の西山修一監督(49)や同部で2年後輩だった阿原典子さん(23)も陸上の砲丸投げで五輪を目指している。刺戟になり「23 千葉県にも試合をます」と話していた。